

臨 牀

尿道淋疾竝ニ其ノ合併症ニ對スル 「ゴノプロカノン」ノ應用

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任根岸教授）

山 本 春 海

〔昭和 10 年 3 月 28 日受稿〕

I 緒 論

尿道淋疾竝ニ其ノ合併症例之淋菌性副睪丸炎、攝護腺炎、關節炎、膀胱炎、子宮附屬器炎ニ對スル治療法ハ近代科學ノ進歩ニ連レテ急速ナル進歩ヲ遂ゲタリト雖モ、依然トシテ其ノ適確且迅速ナル療法ニ乏シキハ遺憾トス。尙ホ淋疾ハ多クノ場合生命ニ危險ヲ伴フコト無ク、患者ノ苦痛局所ニ限ラレ殊ニ排膿停止シ、慢性ニ移行スレバ多クハ放置シテ、ヤヤトモスレバ不攝生ニ陥リ易シ。是多クノ臨牀醫家ヲシテ淋疾治療難ノ聲ヲ叫バシムルノ因ナリ。從來内服、尿道洗滌療法ト共ニ、免疫學上ノ見地ヨリ專ラ淋菌「ワクチン」ノ注射ガ賞用サレシニ、1912 年 Ehrlich, Benda 兩氏ニヨリテ「アクリヂン」色素ノ 1 誘導體タル「トリバフラヴイン」ガ創製セラレ、其ノ強力ナル殺菌力ト、藥液ガ尿路ヨリ排泄セラルル點ヨリシテ、盛ニ淋疾ニ應用セラレテ優秀ナル效果ヲ舉ゲ、治療界ノ寵兒トナレル感アリ。然レ共近時漸ク此種製劑ノ激増ト濫用トニ從ヒ、憂フ可キ副作用ガ注目セラルルニ至レリ。即チ例之注射中或ハ其ノ直後ニ起ル惡心、嘔吐、心悸亢進、注射後ニ起ル頭痛、發熱、皮

膚癢痒感、皮膚發疹、其ノ他之ガ連用ニヨル皮膚色素沈着、胃腸障礙、筋肉痛、全身ノ痙攣等舉ゲラル。爲ニ之等副作用ヲ防止スル目的ニテ、近時「アクリヂン」色素劑ニ、「カルシウム」及ビ葡萄糖ヲ配合セル製劑ノ創製ヲ見、漸ク之等ノ副作用ヲ輕減シ得ルニ至リタルモ、之ヲ以テシテモ皮膚色素沈着ハ尙ホ且之ヲ防ギ得ザルモノノ如シ。又「アクリヂン」色素劑ニヨル筋肉痛ハ其ノ症狀激烈且頑強ニシテ、今日之ガ迅速ナル治療ハ至難トセラルル所ナリ。其ノ他同劑ニヨル皮膚炎、色素沈着症モ、之ガ回復ニハ長時日ヲ要シ、患者ヲシテ不快感ヲ抱カシムルモノナリ。淋疾患者ハ特ニ他種疾患患者ニ比シ、諸醫ヲ轉々シ、各所ニ於テ多クハ「アクリヂン」色素劑ノ注射ヲ受ケ、爲ニ不知不識ノ間ニ之ガ蓄積ヲ來タシ、往々敍上ノ如キ不快ナル症狀ヲ見ル所ナリ。

之等ノ局所療法、「アクリヂン」色素劑ノ注射療法ノ他ニ、近時發熱療法例之「マラリヤ」接種療法、「ビリフェル」療法、淋菌「ワクチン」竝ニ大腸菌「ワクチン」靜脈内注射療法、硫黃療法等ガ淋疾竝ニ其ノ合併症ニ適用セラレ、就中「ビリフェル」ニヨル發熱療法ハ本教室根

岸教授竝ニ中西學士ニヨリテ淋疾合併症ニ對シ優秀ナル治療の效果ノアルコトヲ發表セラレタリ。然レ共之等發熱療法ハ患者ノ體質ヲ檢シテ初メテ適用サル可ク、又發熱中ニハ其ノ經過ヲ監督スル爲ニ入院ヲ必要トス。之ガ爲ニ今少シク簡單ニ、患者ニ苦痛ヲ與ヘル事ナク、合理的ニシテ且副作用ナキ在來ノ「アクリヂン」色素劑ニ匹敵ス可キ製劑ノ出現ヲ待ツ事切ナリシニ、今回鎮靜、消炎、鎮痛、解毒作用ヲ有スル「ブロームカルシウム」ニ、解毒、營養、利尿作用ヲ有スル葡萄糖ヲ配合セル在來ノ「プロカノン」ニ、多價淋菌「ワクチン」ヲ合劑セル「ゴノプロカノン」ナル注射劑ノ治療界ニ提供セラレタルニ及ビ、淋疾ノ如キ強キ炎症性疾患竝ニ其ノ合併症ニ對シテハ此種製劑ガ或ハ意外ノ效果アルニ非ズヤト考ヘ、余ハ岡山醫科大學皮膚科泌尿器科外來ヲ訪レタル尿道淋疾竝ニ其ノ合併症ヲ有スル通院竝ニ入院患者ニ就キ、之ヲ應用シ、快心ノ效果ヲ得タルヲ以テ茲ニ其ノ成績ヲ記載シ、大方識賢ノ追試高教ヲ仰ガント欲ス。

II 使用法

本劑ハ1號「ゴノプロカノン」、2號「ゴノプロカノン」ヨリナリ、前者ハ20 cc 中ニ淋菌多價「ワクチン」0.5 cc ヲ、後者ハ20 cc 中ニ0.7 cc 含有セリ。余ハ「アンブルレー」入り「ゴノプロ」(以下斯ノ如ク略稱)。1號20 cc ヲ隔日、或ハ2日置キニ靜脈ニ注射シ、3回乃至4回ニ及ベバ之ヲ2號ニ代ヘテ注射セリ。

III 症 例

余ノ「ゴノプロ」注射患者ハ可成リ多數ニ及ベルモ、患者ノ都合ニヨリ1回乃至4回ニテ

之ヲ中止セルモノハ全部之ヲ除外シ、5回以上之ガ注射ヲ受ケ、可及的規則的ニ、且連續的ニ治療ヲ受ケタルモノ、15例ヲ選ビ、之等ニハ同時ニ何レモ他ノ治淋注入劑又ハ内服藥ヲ併用治療セリ。而シテ病歴ハ成ル可ク簡單ニ記載シ、尿ノ濁濁、白血球、淋菌ノ證明等モ、其ノ程度ハⅢ, Ⅱ, Ⅰ, Ⅳ, Ⅴ, Ⅵヲ以テ略示セリ。又尿道洗滌ニハ「プロタルゴール」又ハ「チオタルガン」液ノ $\frac{1}{4}$ —1%ノモノヲ使用セリ。

第1例 中野某 3 23歳既婚 農

病名 亞急性淋菌性前部尿道炎

急性淋菌性副尿道炎

病歴及ビ現症 約1箇月前ヨリ輕度ノ放尿痛アリ。放置セシニ約1週間前ヨリ排膿ヲ見ルニ至レリ。外尿道口ハ輕度ニ發赤シ、稀薄分泌物ヲ見ル。外尿道口直下ニ帽針頭大ノ副尿道ヲ認メ、指壓スルニ稀薄膿樣分泌物アリ。辜丸、副辜丸、攝護腺何レモ正常。尿ハⅠ(Ⅱ), Ⅱ(Ⅰ), 外尿道口竝ニ副尿道ヨリノ分泌物ヲトリテ鏡檢スルニ、何レモ多核白血球(Ⅲ)單核(Ⅱ)尿道表皮(Ⅱ)粘液(Ⅱ)淋菌(Ⅱ)ナリ。

治療及ビ經過 入院。直チニ副尿道ノ切開ヲ行ヒ、毎日尿道洗滌、2日間ノ間隔ヲ置キテ、「ゴノプロ」ヲ注射セシニ、注射2回ニシテ排膿ヲ停止シⅠ(Ⅳ), Ⅱ(Ⅰ)トナリ、注射3回ニシテⅠ(Ⅳ), Ⅱ(Ⅰ)多核白血球(Ⅱ)單核白血球(Ⅱ)尿道表皮(Ⅱ)粘液(Ⅱ)淋菌(Ⅰ)トナレリ。注射5回ニシテ尿中僅少ノ膿球ヲ見ルノミトナリ、引續キ7回ニシテハ尿全ク透明トナリ、9回ニシテ尿ハ全ク透明、膿球ヲ證明シ得ザルニ至レリ。10回ノ注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第2例 石原某 ♀ 21歳既婚 主婦

病名 急性淋菌性尿道膀胱炎

急性淋菌性子宮頸部炎

病歴及ビ現症 約1箇月前ニ結婚、約2週間ヲ經テ尿意頻數ヲ訴ヘ、數日ヲ經テ外尿道口ヨリ排膿ヲ見、同時ニ激烈ナル排尿痛ヲ訴ヘ、更ニ漸次白帶下増加シ、淋疾ノ診斷ノ下ニ、「アクリヂン」色素劑ヲ注射ヲ受ケタルモ症狀良好トナラズ、下腹部ヨリ上腿部ニ及ブ牽引痛ヲ訴ヘルニ至レリ。外尿道口ハ輕度ニ發赤シ、壓スルニ排膿ヲ見ル、腔口ノ周圍ハ可ナリ糜爛シ、子宮腔部ハ著シク充血シ、子宮口又可ナリノ糜爛ヲ示シ、分泌物ハ濃厚粘液、膿狀ナリ。尿ハI(+), II(±), 腔分泌物ヲ鏡檢スルニ多核白血球(++)單核(+)腔表皮(++)粘液(+)淋菌(+)ナリ。次ニ尿道ヲ指壓シ、其ノ分泌物ヲ檢スルニ多核白血球(++)單核(+)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 入院、尿道膀胱ニ藥液注入、腔洗滌ヲ行ヒ、「ゴノプロ」ヲ2日或ハ3日間隔ヲ置キテ注射セシニ、注射2回ニシテ外尿道口ノ發赤消失シ、排膿放尿痛及ビ下腹部ヨリ上腿ニ及ブ牽引性疼痛全ク去レリ。注射3回ニシテI=II(-)トナリ、腔分泌物ヲ鏡檢スルニ多核白血球(+)單核(+)淋菌(-)トナリ、患部モ之ニ平行シテ、子宮腔部ノ充血著シク減退シ、子宮口ノ糜爛又快方ニ向ヒ、注射6回ニシテ白帶下殆ド消失シ、尿中ニハ白血球ヲ證明セズ、腔分泌物中ニ僅少ノ膿球ヲ見ルノミトナリタリ。注射8回ニシテ自覺症狀全ク消失シ、他覺的ニモ子宮腔部ニ極メテ輕度ノ發赤ヲ殘スノミトナリ、退院、引續キ通院シ、12回ノ注射ヲ行ヒシニ、副作用ヲ全ク認メズ。

第3例 上林某 ♂ 30歳既婚 銀行員

病名 急性淋菌性前部尿道炎

病歴及ビ現症 約1箇月半前、急性淋菌性前部

尿道炎トナリ、當外來ニテ治療全治セシモ、再感染シ、外尿道口ヨリ排膿ヲ見ルニ至レリ。外尿道口ハ發赤シ、排膿著明ナリ。尿ハI=II(±), 早朝外尿道口ヨリノ分泌物ヲトリテ鏡檢スルニ、多核白血球(++)單核(++)尿道表皮(++)粘液(++)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌、隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射ス、注射2回ニシテI=II(-)トナリ、淋菌消失排膿停止セリ。引續キ注射6回ニシテ尿ハ全ク透明トナリタルモ、注射直後頭痛アル由ニテ患者ノ希望ニヨリ其ノ後ノ注射ヲ中止セリ。6回注射後尿ヲ遠心沈澱スルモ沈査ヲ得ズ。其ノ後局所ノ洗滌ノミニテ全治セリ。

第4例 酒井某 ♂ 23歳未婚 軍人

病名 再發性淋菌性全部尿道炎

第2度「デアテルミー」火傷(包皮)

病歴及ビ現症 感染機會後7日ニシテ排膿アリ。尿道淋疾ノ診斷ノ下ニ「トリバフラビン」注射16回受ケ、後「デアテルミー」療法ニヨリ排膿停止セリト。「デアテルミー」療法中、包皮ニ火傷ヲ受ケ水泡ヲ形成セリト。約1週間前飲酒シ、爲ニ再ビ排膿ヲ見ルニ至レリ。外尿道口ハ輕度ニ發赤シ、且膿樣分泌物ヲ見ル。包皮右緣ニ豌豆大ノ淺キ潰瘍アリ。尿ハI(++), II(+)多核白血球(++)單核(+)尿道表皮(+)淋菌(++)ナリ。

治療及ビ經過 入院、毎日尿道洗滌及ビ隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射セリ。注射4回ニシテ排膿消失シ、5回ニシテ尿ハI=II(-)。尿中僅少ノ膿球ヲ見ルノミニシテ淋菌ヲ證明セズ。引續キ注射9回ニシテ自覺症狀全ク消失シ、他覺的ニモ、尿中極メテ僅少ノ白血球ヲ見ルノミトナリ、退院セリ。注射ニヨル副作用ヲ經驗セズ。

第5例 東本某 ♂ 23歳未婚 郵便局員

病名 急性淋菌性全部尿道炎

病歴及ビ現症 感染機曾後2日ニシテ放尿痛アリ、4日ニシテ排膿アリ、直チニ醫師ヲ訪ネ「アクリヂン」色素剤ヲ連日7日注射セラレシニ、顔面、兩手甲ニ發疹ヲ生ゼシニ拘ラズ、隔日3週間同注射ヲ繼續、都合17—18回ニ及ビシモ、排膿依然タリ。外尿道口ハ強度ニ發赤シ、浮腫狀ヲ呈シ、排膿著シ。尿ハI(++)、II(+), 外尿道口ヨリノ膿ヲトリテ鏡檢スルニ、多核白血球(++)單核(++)尿道表皮(+)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌、隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射セリ。注射6回ニシテ尿ハI(±)、II(-)トナリ排膿停止シ、淋菌ヲ證明シ得ザルニ至リタルモ、經過ハ一進一退ノ状態ニシテ、注射11回ヲ試ムルモ再ビ排膿ヲ見、尿中淋菌ヲ證明セリ。13回ノ注射ニヨル副作用ハ注射中顔面、心臓部ニ輕度ノ熱感ヲ覺ユル外之ヲ見ズ。本症ハ爾後「バンセブテン」ノ注射ヲ續ケ、9回ニシテ尿中淋菌ヲ證明セザルニ至リシモ、注射15回ニ至ルモ、依然トシテ尿ハI(+), II(±)ノ状態ナリキ。

第6例 山成某 ♂ 23歳未婚 洋服商

病名 亞急性淋菌性全部尿道炎

病歴及ビ現症 約1箇月前感染機曾後約4日ニシテ外尿道口ヨリ排膿アリ、同時ニ放尿痛ヲ訴ヘ、直チニ醫療ヲ受ケ、「アクリヂン」色素剤ヲ約18回注射サレ、排膿消失シタルモ、放尿時ニ尿道ニ燒灼感アリ。外尿道口、睪丸、副睪丸ニ異常ナシ。尿ハI(++)、II(+)多核白血球(++)單核(+)尿道表皮(+)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌、隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射セリ。注射2回ニシテI=II(±)トナリ、排尿時ノ燒灼感淋菌消失シ、4回ニシテ尿ハ全ク透明トナリ、6回後「ブージー」ヲ挿入シ、翌日ノ外尿道口ヨリノ分泌物ヲ檢スルニ、僅少ノ尿道表皮ト粘液ヲ認ムルノミニシテ、膿球ヲ全ク

見ズ、引續キ尿ハ全ク透明トナリタル爲注射ヲ中止セリ。注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第7例 和氣某 ♂ 24歳既婚 農

病名 慢性淋菌性全部尿道炎

亞急性淋菌性攝護腺炎

病歴及ビ現症 感染機曾後約7日ニシテ排膿アリ、醫師ニヨリ「アクリヂン」色素剤注射及ビ尿道洗滌ヲ受ケ、排膿消失シタルモ、尿濁濁去ラズ且排尿時會陰部ニ疼痛アリ。外尿道口ニ異常ナキモ、左副睪丸尾部拇指頭大ニ肥大シ、攝護腺モ亦肥大、指壓スルニ疼痛アリ。尿ハI(+), II(±)多核白血球(++)單核(+)尿道表皮(+)粘液(+)ナリ。

治療及ビ經過 入院、毎日尿道洗滌、攝護腺ノ冷却ヲ行ヒ、2日間ノ間隔ヲ置キテ「ゴノプロ」ノ注射ヲ行フ。注射2回ニシテ、尿濁濁、尿ノ顯微鏡的所見ハ變ラザルモ、攝護腺ノ指壓ニ對スル疼痛輕減シ、排尿時ニ於ケル會陰部ノ疼痛ハ消失セリ。引續キ注射7回ニシテ尿ハ透明トナリ、尿中僅少ノ膿球ヲ見ルノミトナリ、注射11回ニシテ、自覺症狀全ク消失、尿モ亦透明トナリ、極メテ僅少ノ膿球ヲ見ルノミトナリタリ。注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第8例 難波某 ♂ 29歳既婚 官吏

病名 急性淋菌性前部尿道炎

右鼠蹊部有痛性横痃

病歴及ビ現症 感染機曾後約3日ヲ經テ排膿アリ地方醫師ニヨリ「トリパフラビン」注射6回受ケタルモ排膿消失セズ、爲ニ當科ニ入院シ、「ピリフェル」發熱療法及ビ「バンセカール」注射各々10回受ケタルモ、尿ハI(+), II(±)多核白血球(++)單核(+)W。尿道表皮(+)粘液(++)淋菌(+)ニシテ、尿道ニ藥液注入後、直チニ尿意頻數、排糞感ヲ訴フ。

治療及ビ經過 引續キ毎日尿道洗滌「ゴノプロ」ヲ隔日ニ注射ス。注射6回ニシテ、尿道ニ藥液注入後ノ尿意頻數消失シ、淋菌モ亦證明セズ。尿ハI(±), II(一)トナリ、僅少ノ膿球ヲ見ルノミトナリタリ。其ノ後同様ノ状態ヲ續ケ、18回ノ注射ヲ續ケ、尿ハ全ク透明トナリ、尿中膿球ヲ認メ得ザルニ至レリ。

第9例 岡野某 ♂ 55歳既婚 農

病名 亞急性注菌性全部尿道炎
急性淋菌性副尿道炎
尿道周圍膿瘍

病歴及ビ現症 約1箇月前ニ感染機會アリ、數日後、外尿道口ヨリ排膿ヲ見、放尿痛、尿意頻數ヲ訴ヘリ。約20日前陰莖下面中央皮膚ニ小豆大ノ硬結ヲ生ジ、放置シシニ漸次腫脹シ、擴大シ、扁桃大ノ膿瘍ヲ形成シ、觸ルルニ激痛アリ。外尿道口ハ輕度ニ發赤セルモ分泌物ヲ認メズ。尿道口左縁ニ漏斗狀ヲナシタル副尿道開口アリ。指壓ニヨリ分泌物ヲ認ム。尿ハI(+), II(±)多核白血球(卅)單核(卅)尿道表皮(卅)粘液(+)淋菌(+)ナリ。副尿道ヨリノ分泌物並ニ膿瘍ヨリノ分泌物中ニ淋菌(卅)アリ。

治療及ビ經過 膿瘍、副尿道ヲ切開シ、前者ニハ「リグアノール」濕布ヲ行ヒ、尿道洗滌、「ゴノプロ」ヲ隔日ニ注射セリ。注射2回ニシテ排膿消失シ、3回ニシテ尿中淋菌ヲ證明セズ、外尿道口ノ發赤、尿意頻數、放尿痛消失セリ。注射6回後尿ハ全ク透明トナリ、尿道硬結著シク減退シ、殆ド自覺症狀ヲ缺クニ至リタルヲ以テ、注射ヲ中止シ、尿道洗滌、硬結ニハ「デアテルミー」ヲ應用シ、著效ヲ得タリ。注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第10例 小林某 ♂ 26歳未婚 武具商

病名 再發性淋菌性全部尿道炎
急性淋菌性副尿道炎
兩側淋菌性有痛性橫痃

病歴及ビ現症 約8箇月前尿道並ニ副尿道、攝護腺淋疾ニテ當科ニテ治療ヲ受ケタルモ、全治セズシテ中絶セリ。約1週間前ヨリ再ビ排尿痛及ビ排膿ヲ訴フ。外尿道口ハ發赤シ、辜丸副辜丸ニ異常無キモ、攝護腺少シク肥大ス。併シ壓痛ナシ。兩側鼠蹊腺ハ數箇指頭大ニ肥大シ、輕度ノ壓痛アリ。尿ハI(++)、II(+)多核白血球(卅)單核(+)尿道表皮(+)粘液(+)淋菌(++)ナリ。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射セシニ、2回ニシテ排膿著シク減少シ外尿道口ノ發赤モ亦減退シ、4日ニシテ(+)II(±)トナリ、尿中淋菌ヲ認メズ、5回ニシテ、兩鼠蹊部淋巴腺ハ著シク縮小セリ。尿ハI(±)>II(±)ニシテ未ダ清透ニ至ラザル中ニ、患者ハ來院ヲ中止セリ。注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第11例 國富某 ♂ 22歳未婚 米商

病名 急性淋菌性全部尿道炎
淋菌性副尿道炎

病歴及ビ現症 約1年半前ニ淋疾ニ罹リ、十分ノ治療ヲ受ケザリシニ、2、3日前ヨリ毎朝排膿アリ。初診時ニハ外尿道口ニ異常ナク、尿ハI(+)II(±)、尿中淋絲ヲトリテ鏡檢スルニ、多核白血球(++)單核(+)W.粘液(+)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 「ゴノプロ」ノ注射ヲ隔日ニ初ム。注射3回ニシテ淋菌ヲ證明シ得ザルニ至リタルモ、早朝外尿道口ヨリノ排膿依然タルニヨリ、「パンセブチン」注射ヲ併用ス。カクシテ「ゴノプロ」9回、「パンセブチン」12回ニ至ルモ尿ハI(+)II(±)ノ状態ニテ、且沈澱物中ニ多數ノ膿球ヲ證明シ、快方ニ向ハズ。9回ノ注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

第12例 武久某 ♂ 34歳既婚 製綿商

病名 慢性淋菌性全部尿道炎

病歴及ビ現症 約2箇月前感染機會後5日ニシ

テ排膿アリ。地方ニ於テ約1箇月治療ヲ受ケタルモ著效ナク、爲ニ當科ニ入院、「ビリフェル」、「パンセカール」併用療法ヲ受ケ症狀著シク良好トナリシモ、尿ハI(+), II(±)白血球多核(+)W. 單核(+)尿道表皮(+)ナル爲治療ヲ續行ス。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌、隔日ニ「ゴノプロ」ヲ注射ヲ行フ。注射3回ニシテ尿ハ全ク透明トナリ膿球ヲ全ク認メザルニ至レリ。爾後良好ナル經過ヲ繼續シ、尿中僅少ノ膿球ヲ時トシテ見ルノミナリシガ、患者ノ希望ニヨリ注射ヲ續行20回ニ及ブモ副作用ヲ全ク認メズ。

第13例 古志某 ♂ 25歳未婚 洋服商

病名 亞急性淋菌性前部尿道炎

病歴及ビ現症 約4箇月前感染機會アリ、數日ヲ經テ排膿アリシモ完全ナル醫療ヲ受ケズ、爲ニ排膿ヲ停止セズ。自轉車ニ乗ル時ハ特ニ翌日多量ノ排膿ヲ見ルト。外尿道口ハ輕度ニ發赤スル外異常ナク、尿ハI(+), II(+), 多核白血球(++)單核(++)尿道表皮(+)粘液(+)淋菌(++)ナリ。

治療及ビ經過 入院、尿道洗滌ト同時ニ「ゴノプロ」、「ビリフェル」ヲ交互ニ注射セシニ前者1回、後者2回ニシテ排膿止ミ、淋菌ヲ見ザルニ至レリ。同様ノ處置ヲ續ケ「ゴノプロ」5回、「ビリフェル」6回ニシテ尿ハ全ク透明トナリ尿中膿球ヲ認メズ、僅ニ尿道表皮、粘液ヲ見ルノミナリタリ。

第14例 杉岡某 ♂ 27歳未婚 白米商

病名 慢性淋菌性全部尿道炎

病歴及ビ現症 約1年前淋疾ニ罹リ排膿アリ、諸醫ヲ轉々シ、「アクリヂン」色素劑約200回注射サレ、顔面其ノ他露出部ニ著明ナル色素沈着ヲアラハシ、且食思不振、輕度ノ筋肉痛ト關節痛ヲ訴ヘ、今日尙ホ輕度ノ排尿痛ト過勞ノ後ニハ排膿ヲ見ルト。外尿道口ハ稍々發赤スルモ、睪丸、副睪丸、攝護腺何レモ正常。尿ハI(+), II(±), 多

核白血球(++)單核(+)尿道表皮(+)粘液(+)淋菌(+)ナリ。

治療及ビ經過 毎日尿道洗滌、「ゴノプロ」及ビ「ビリフェル」交互ニ注射ス。「ゴノプロ」4回、「ビリフェル」5回ニシテ尿ハ全ク透明トナリ、尿中僅少ノ膿球ヲ見ルノミナリ淋菌ヲ證明セズ、食慾回復シ、「ゴノプロ」9回、「ビリフェル」8回ニシテ尿中膿球ヲ全ク證明セズ。筋肉痛、關節痛モ全ク消失セリ。以後同様ノ經過ヲ續ケ、患者ノ希望ニヨリ「ゴノプロ」20回注射セシニ全ク副作用ヲ見ズ、活潑ナル運動ヲ試ムモ筋肉痛、關節痛ヲ全ク訴ヘザルニ至レリ。

第15例 近藤某 ♂ 20歳未婚 綿布商

病名 急性淋菌性全部尿道炎

急性淋菌性攝護腺炎

淋菌性横痃

病歴及ビ現症 約2週間前ニ感染機會アリ、數日前ヨリ排膿ヲ訴フ。外尿道口ハ發赤、浮腫狀ヲ呈シ、排膿著明ナリ。攝護腺ハ鳩卵大ニ腫脹シ、壓スルニ軟ニシテ疼痛著シ。兩鼠蹊腺ハ拇指頭大ニ肥大シ、壓痛アリ。尿ハI=II(++), 多核白血球(++)單核(++)尿道表皮(+)淋菌(++)ナリ。

治療及ビ經過 入院、「ゴノプロ」及ビ「ビリフェル」ヲ併用注射ス。「ゴノプロ」2回、「ビリフェル」2回ニシテ排膿著シク減少シ、攝護腺ノ腫脹及ビ壓痛モ著シク輕減シ、且兩鼠蹊部横痃ハ全ク消失セリ。尿モ之ニ平行シテI=II(±), 多核白血球(+)W. 單核(+)W. トナリ、尿中淋菌ヲ證明セズ。爾後良好ナル經過ヲトリ、「ゴノプロ」10回、「ビリフェル」7回ノ注射ヲ行ヘルニ、尿ハ全ク透明、攝護腺モ全ク常態ニ復シ、注射ニヨル副作用ヲ認メズ。

敍上症例ヲ簡單ニ表示スレバ次ノ如シ。

番 號	患 者	年 齡 性 婚	病 名	主 訴	「ゴノプロカノン」注射前ニ 於ケル尿所見				注射 回數	經 過		判 定	備 考
					前尿	後尿	白血球	多核球		排膿	尿中 淋菌		
1	中野 (入院)	23 男 婚	亞急性淋菌性前部尿道炎 亞急性淋菌性副尿道炎	排尿痛 排膿	++	-	++	+	10	2 回デ 3 回デ	-	良	
2	石原 (入院)	21 女 婚	急性淋菌性尿道炎膀胱炎 急性淋菌性子宮頸部炎	排膿	+	±	++	+	12	2 回デ 3 回デ	-	良	2 回ニシテ下腹部ヨリ上腿ニ及ブ 牽引痛去ル 6 回ニシテ白帶下殆ド消失
3	上林 (通院)	30 男 婚	急性淋菌性前部尿道炎	排膿	±	±	++	+	6	2 回デ 2 回デ	-	良	2 回注射, 尿 I=II(-)
4	酒井 (入院)	23 男 未婚	再發性淋菌性全部尿道炎 デアテテルミ-火傷第2度	排膿	++	+	++	++	9	4 回デ 5 回デ	-	良	
5	東本 (通院)	23 男 未婚	急性淋菌性全部尿道炎	排尿痛	++	+	++	+	13	13 回且 11 回且	+	不良	
6	山成 (通院)	23 男 未婚	亞急性淋菌性全部尿道炎	尿道内不快感	++	+	++	+	6	2 回デ	-	良	4 回ニテ尿 I=II(-) 主訴消失 2 回ニテ排尿時ノ燒灼感去ル
7	和氣 (入院)	24 男 婚	慢性淋菌性全部尿道炎 亞急性淋菌性攝護腺炎	尿瀾濁 排尿時會陰部疼痛	+	±	++	+	11			良	2 回ニテ排尿時ノ會陰部疼痛去ル
8	難波 (入院)	29 男 婚	急性淋菌性前部尿道炎 右淋菌性有痛性横痃	尿意頻數	+	±	++	++	18	6 回デ	-	稍良	6 回ニテ尿意頻數去ル

番 号	患 者	年 齡	性 婚	病 名	主 訴	「ゴノプロ」注射前ニ				注 射 回 数	経 過		副 作 用	判 定	備 考
						前尿	後尿	白血球	多核 白血球	淋菌 検査	排膿	尿中 淋菌			
9	岡野 (通院)	55 ♂	婚	亜急性淋菌性全部尿道炎 急性淋菌性副尿道炎 尿道周囲膿瘍	尿濁	+	±	++	++	6	2回デ3回デ	—	—	良	
10	小林 (通院)	26 ♂	未婚	再發性淋菌性全部尿道炎 急性淋菌性副尿道炎 兩側淋菌性機症	排尿痛 排膿	++	+	++	+	5	3回デ4回デ	—	—	稍良	5回ニテ横痃縮小
11	國富 (通院)	22 ♂	未婚	急性淋菌性前部尿道炎 淋菌性副尿道炎	排膿	±	±	++	+	9	6回デ3回デ	—	—	不良	9回ニテ尿I(+), II(±) 尿中多核膿毒アリ, 「パンセプチン」 ヲ併用セリ
12	武久 (入院)	35 ♂	婚	慢性淋菌性全部尿道炎	排膿	+	±	++	+	20			—	良	3回ニテ尿I=II(—) 尿中膿毒ナシ
13	古志 (入院)	25 ♂	未婚	亞急性淋菌性前部尿道炎	排膿	++	+	++	++	5	1回デ1回デ	—	—	良	「ペリフェル」併用 「ゴノプロ」1回, 「ペリフェル」2回 ニテ排膿—, 淋菌—
14	杉岡 (入院)	29 ♂	未婚	慢性淋菌性全部尿道炎	排尿痛	+	±	++	+	20	3回デ4回デ	—	—	良	「ペリフェル」併用 「ゴノプロ」4回, 「ペリフェル」5回 ニテ尿I=II(—)
15	近藤 (入院)	20 ♂	未婚	急性淋菌性全部尿道炎 急性淋菌性攝護腺炎	排膿	++	++	++	++	10	3回デ2回デ	—	—	良	「ペリフェル」併用 「ゴノプロ」2回, 「ペリフェル」2回 ニテ横痃全ク縮小

IV 總括竝ニ考按

以上ノ如ク余ノ臨牀例ハ15例ニシテ、其ノ中9名ハ入院、6名ハ通院患者ナリ。15例中10例ハ局所療法ト共ニ「ゴノプロ」ノミヲ注射セルモノニシテ2例ハ「バンセブチン」ヲ併用シ、爾餘ノ3例ハ「ビリフエル」發熱療法ト併用セル症例ヲ選ビタリ。男女別ニスレバ男子14例、女子1例ナリ。之ヲ疾患別ニスレバ急性前部尿道炎2例、急性全部尿道炎2例、亞急性前部尿道炎3例、亞急性全部尿道炎3例、急性尿道膀胱炎1例、慢性全部尿道炎3例、再發性全部尿道炎1例ナリ。合併症トシテハ、副尿道炎3例、淋菌性横痃3例、攝護腺炎2例、急性子宮頸部炎、尿道周圍膿瘍各1例ナリ。注射回數ニヨリテ之ヲ分類スレバ、5回2例、6回3例、9回2例、10回2例、11回、12回、13回、18回各1例、20回2例、平均10回強ニ當リ、其ノ注射總回數ハ160回ニ當ル。

次ニ本劑ノ治療的價值ヲ見ルニ、排膿ハ早キハ既ニ1回注射後停止シ、多クハ2回—4回ニシテ止ミ、1例ノミハ13回後モ尚ホ排膿ノ停止セザルモノアリタルモ、之ニ「バンセブチン」ヲ適用シ15回ノ注射ヲ行ヒシモ依然トシテ尿ノ濁濁ヲ消失シ得ザリキ。尿中淋菌モ早キハ1回ニシテ、多クハ2回乃至數回ニシテ消失シ、タダ1例ニ於テノミ11回ニシテ、尚ホ且陽性ナルヲ見、爾後「バンセブチン」ノ注射ヲ行ヒ、9回ニシテ漸ク之ヲ消失セシメ得タリ。

上述セル如ク余ハ本劑ノ注射ト同時ニ他ノ局所療法ヲ併用セシヲ以テ以上ノ成績ヲ以テ直チニ本劑ノ效果ノミニ歸スル能ハザルハ茲

ニ贅言ヲ要セズ、然レ共余ノ經驗ニ從ヘバ、夫等ノ單獨療法ニヨルモノニ比シテ遙ニ有效ナル事實ハ否定シ得ザルナリ。尙ホ本劑ノ效果ハ「トリバフラビン」系ノ「アクリヂン」色素劑ニ比シテ遜色ヲ見ズ。即チ本劑ノ應用ハ患者ノ苦痛ヲ輕減セシメ、淋疾ノ治療日數ヲ著シク短縮セシムルニ與ツテ效アリ。特ニ本劑ノ效果ハ、其ノ中ニ含マル多價「ワクチン」ノ作用ニヨリ、特異性抗體ノ形成ノ結果、免疫體ノ生成竝ニ「プロームカルシウム」及ビ葡萄糖ノ有スル鎮靜、消炎、鎮痛、解毒、利尿等ノ諸作用ノ效果ニ非ズヤト思惟スルモノナリ。

更ニ排膿、尿中淋菌ノ消失ト共ニ、之等ニ附隨セル諸種刺戟症狀モ迅速ニ緩解乃至消失シ、又第10例ノ淋菌性横痃ノ如キハ、特殊ノ局所療法ヲ行フ事ナクシテ5回ノ注射ニヨリテ之ヲ消退セシメ、攝護腺炎ノ2例ノ中1例ハ、2回ノ注射ニヨリテ主訴消失シ、且其ノ腫脹ノ減退ヲ見タリ。女子ノ淋菌ニヨル子宮附屬器炎ハ從來其ノ治療頗ル難事トセラレシモ、余ノ例ハ不幸ニシテ1例ニスギザリシモ、本劑ノ注射3回ニシテ、自覺的症狀全ク消失シ、他覺的ニモ子宮腔部ノ充血著シク減退シ、子宮口ノ糜爛モ亦快方ニ向ヒ、注射6回ニシテ白帶下ノ消失ヲ見、コノ方面ニモ應用サル可キヲ思ハシメタリ。次ニ淋疾ノ發熱療法トシテ「ビリフエル」ヲ本邦ニ於テ初メテ應用セシハ本教室根岸教授ニシテ、之ガ殊ニ尿道淋ノ合併症ニ對シテ極メテ優秀ナル效果アル事ハ既ニ發表セラレタル所ナリ。又同氏等ハ「ビリフエル」療法ト「アクリヂン」色素劑トノ併用ヲ試ミ、發熱最高時ニ「バンセブチン」又

ハ「バンセカール」ヲ注射シ、「ピリフェル」單獨ニヨル以上ノ效果アル事ヲ發表セリ。余ハ更ニ「ピリフェル」ヲ注射シ、生體ノ變調ヲ來タセル間ニ、本劑ヲ併用シ、「アクリヂン」色素劑併用ニヨル場合ニ勝ル共劣ラザル成績ヲ擧ゲ得タリ。之ニ關スル余ノ例ハ未ダ少數ニシテ、更ニ症例ノ増加ヲ待チテ他日之ヲ發表セントスル考ナルモ、余ハ「ピリフェル」注射ノ翌日「ゴノプロ」ヲ注射シ、第13例ニ於テハ「ピリフェル」2回、「ゴノプロ」1回ニシテ既ニ排膿全ク消失シ、尿中淋菌ヲ證明シ得ザルニ至リ、其ノ後引續キ極メテ良好ナル經過ヲトリ治癒ヲ早メタリ。又第15例ニ於テハ兩者ノ併用ニヨリ即チ「ピリフェル」2回、「ゴノプロ」2回ニシテ淋菌性横痃ヲ完全ニ消退セシメタリ。

猶ホ尿道淋治療中最モ不愉快ニシテ、且患者ニ苦痛ヲ與フルモノノ諸種合併症例之淋菌性副睪丸炎、攝護腺炎、精囊炎等ノ併發ナルガ、余ハ「ゴノプロ」適用約140名ニ於テ、1例ヲモ之等合併症ヲ起セルモノヲ經驗セズ。勿論之等合併症ハ個人ノ素質、治療手技ノ巧拙、或ハ患者ノ安靜ヲ守ルト然ラザルトニヨリテ左右セラルル事多キモ、本劑ノ效果モ與ツテ力アル事ハ疑フ可ラザル事實ナリ。

次ニ本劑ノ副作用ニ就キ細心ニ之ヲ觀察セシニ、大半ハ注射時特ニ約半筒ノ注射ヲ終リテヨリ胸部、腹部、口腔内等ニ極メテ輕度ノ熱感ヲ訴ヘル他、之ガ連用ニヨルモ、「アクリ

ヂン」系色素劑ニ見ルガ如キ副作用ヲ全ク經驗セズ。タダ第3例ニ於テ注射直後ニ輕度ノ頭痛ヲ見タルノミナリ。又本劑ハ全ク無色ニシテ衣服ヲ汚損スル怖ナク、安心シテ使用シ得ル便利アリ。

以上觀察シ得タル實驗例ハ尙ホ多數トハ云ヒ難ク、之ヲ以テ直チニ全般ヲ律スル事ハ早計ノ譏ヲ免レザルモ、目下實驗中ノ症例ノ成績ヲモ參酌シ次ノ如ク結論セントス。

V 結 論

1) 「ブロームカルシウム」竝ニ葡萄糖ノ合劑タル「プロカノン」ニ淋菌多價「ワクチン」ヲ調和セル「ゴノプロカノン」ノ尿道淋疾竝ニ其ノ合併症ニ對スル治療ノ效果ハ「アクリヂン」系色素劑ニ比シテ敢テ遜色ナク、且「ワクチン」ヲ含有スル爲ニ、合併症ヲモ未然ニ防止シ得可シ。

2) 本劑ハ「ピリフェル」發熱療法ト併用スル事ニヨリ、後者ノ治療ノ價值ヲ增強ス可シ。

3) 本劑ノ適用ハ患者ヲシテ極メテ輕微ナル熱感ヲ訴ヘシムルノミニシテ、之ヲ連用スルモ、毫モ副作用ヲ認メズ。

擧筆スルニ當リ御懇篤ナル御指導竝ニ御校閱ヲ賜リタル恩師根岸教授ニ深謝ス。